



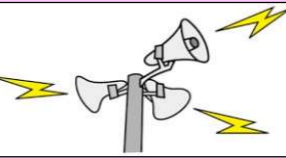









八幡台自治会：災害時における行動マニュアル（地震編）

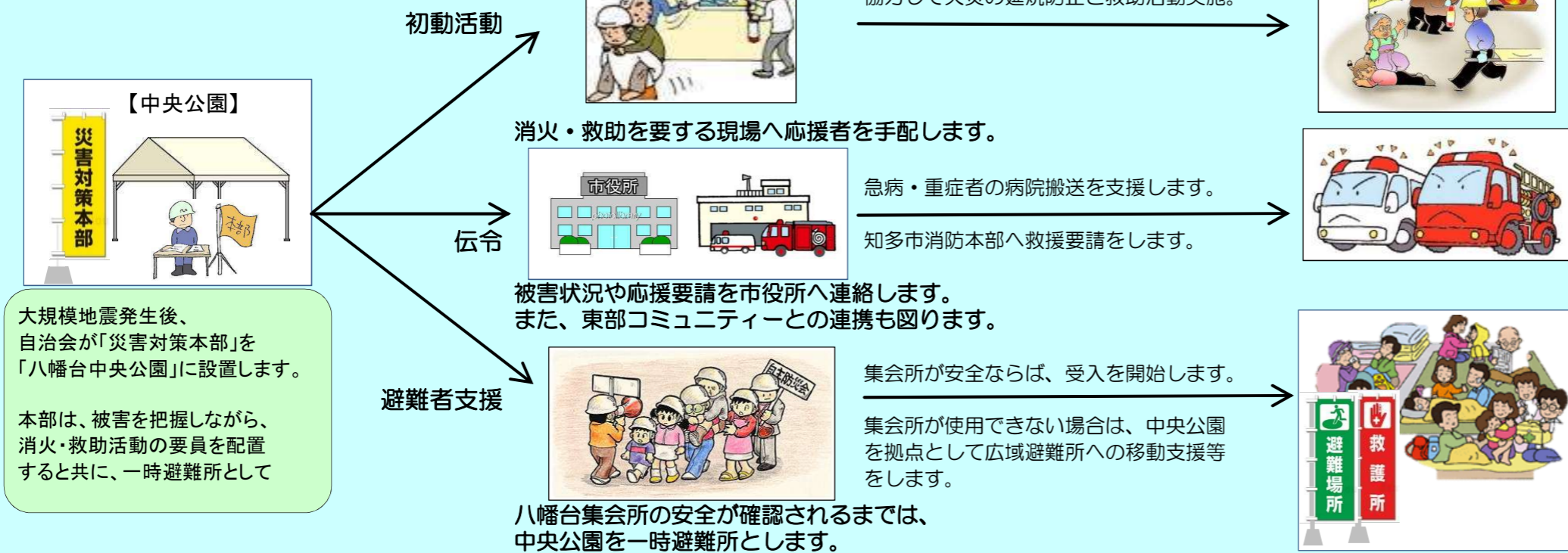
平成29年5月

八幡台地区は、標高のある土地に立地していることから、大規模地震後の津波による直接的な被害は回避できると予想できます。しかし、家屋の倒壊、火災、地割れ、盛土の崩落、電柱やブロック塀の倒壊は、起こり得る事象として、日頃から対策や心構えをしておく必要があります。大規模地震に直面した際、被害の拡大を抑えるには、自身の安全確保と火を出さないことが重要です。本マニュアルは、八幡台のみなさんが「もしもの時」に、何をしなければならないのかを理解していただくために作成しました。

八幡台自治会 災害救援隊

日頃の準備 平常時	発災直前 地震発生直前	大規模地震発生 地震発生～6分	揺れが収まったら 地震発生～30分	八幡台中央公園の本部へ 地震発生～1時間
<p>非常用品の定期点検</p>  <p>非常食 飲料水 懐中電灯 ラジオ 乾電池等の準備</p> <p>家具・家電類の転倒防止</p>  <p>冷蔵庫 タンス テレビ 食器棚 ピアノ等の固定</p> <p>家族で話し合っておきましょう。</p>  <p>自身を守る 避難場所 連絡手段 協力について</p>	<p>緊急地震速報!!</p>  <p>緊急地震速報や緊急放送を聞いたら、慌てずに火気の使用は中止して、安全な場所で大きな揺れに備えてください。</p> <p>大きな揺れが来ます!!</p> 	<p>地震による大きな揺れは、長くても1分程度です。落ち着いて自身の安全確保を！ ※南海トラフ（東海・東南海・南海）連動地震の場合は、激しい揺れが長引くことが予想されます。</p>  <p>火気を使用していたならば、すぐ火元を止めましょう。</p>  <p>家具・家電の転倒・落下から頭部を守りましょう。</p>  <p>家具類が転倒しても被害を受けないように、机・テーブルの下でかがみましょう。</p> <p>火を出さないことが減災になります。</p> 	<p>無事であれば、家族の安否と被害状況の確認しましょう。</p> <p>近隣に声をかけて、安否確認をしてください。</p>  <p>人的被害がなければ、配付された「黄色の旗」を玄関先に掲げて、無事である表示をしてください。</p> <p>出火・倒壊家屋があったら、その情報を班長へ知らせた後、消火・救出活動に協力してください。</p> <p>出火した場合は、落ち着いて、火が小さなうちに消火しましょう。延焼した場合は、人命最優先！近隣に協力を要請して、被害の極小化に努めながら消火班の到着を待ってください。</p>  <p>家屋が倒壊または、転倒した家具類によって動けない場合は、物を叩くなど音を出して救出班の到着を待ってください。</p> 	<p>発災後、八幡台中央公園に「災害対策本部」が設置されます。地区内における住民の安否確認ならびに被害状況の情報を基に、本部が消火班や救助班の配置を行ないます。</p> <p>動ける方は中央公園に参集して、災害対策本部へ安否・被害情報を提供して下さい。その後、初動活動(消火・救出)および避難所開設準備に協力願います。</p> <p>安否確認や消火・救出・救護活動、避難支援を迅速に実施するには、住民のみなさんからの情報が最も重要となります。</p> <p>本部では、情報収集した被害状況に基づき、知多市役所と連携をとりながら、知多市消防本部への出動要請をします。しかし、地域全域が被災すれば、公設消防による救援は期待できないことが予想されます。したがって、自分の身は自分で守り、救護が必要な人を保護し、八幡台地区を減災に導く必要があります。</p>

本部設置から避難所開設までの流れ



公設消防は、至る所で発災した消火・救助現場で活動するため、到着の遅れが予想されます。
自助・共助で八幡台を守りましょう!

- 避難所開設に伴う受入基準**
- 1 自宅が火災や倒壊により待機不能な方・・・避難所へ
 - 2 建物倒壊の危険性が極めて高い方・・・避難所へ
 - 3 介護・救護を要する一人暮らしの方・・・避難所へ
- 避難所運営活動**
- 1 負傷者・救護者の保護と医療機関への搬送支援
 - 2 備蓄・救援物資の分配（食料・飲料水等）
 - 3 秩序ある避難生活維持活動と警防活動
 - 4 住民への正確な情報伝達とメンタルケア